

病害虫発生予察地区報第 1 号

- 地区情報 -

病害虫名：アブラナ科野菜の黒斑細菌病

1 情報の内容

育苗中のアブラナ科野菜苗に黒斑細菌病が発生している。育苗時における黒斑細菌病の発生を見逃し、罹病苗や感染苗を定植すると、ほ場で多発する恐れがある。

2 対象地域

東信のアブラナ科野菜栽培地域

3 発生状況

- (1) 東信地域において、4 月にハクサイ、5 月にグリーンボールおよびキャベツの苗で、葉に褐色～黒色の不整形斑点を呈し、腐敗する病害が発生した。野菜花き試験場佐久支場で診断したところ、黒斑細菌病と確認された。
- (2) キャベツ、グリーンボールでは、初期は子葉に黒色小斑点を生じる(図 1) のち、本葉にも拡大し、黒色の小斑点や黒色～褐色の不整形で大型の病斑を呈する(図 2)。葉縁から内側へ病斑が進展する場合もある(図 3)。病斑部分は周囲の健全部と比較し、やや陥没する(図 3)。湿潤条件下では病斑は水浸状であるが、乾燥条件では褐色となる。発病がひどい場合は子葉が腐敗、脱落し、本葉も大部分が腐敗する。
- (3) ハクサイも症状はキャベツ類の場合と類似するが、子葉における発病が主である(図 4)。本葉では黒色の斑点を生じるが(図 5)、グリーンボール等と比較すると病斑は小型であり、症状が軽微のまま止まる場合が多い。ただし子葉は腐敗、脱落する。



図 1 グリーンボール子葉の病徴



図 2 本葉に発生した黒斑細菌病



図 3 葉縁から内側へ進展した病斑(グリーンボール)



図4 ハクサイ子葉の病斑



図5 ハクサイ本葉の病斑
(画像はいずれも野菜花き試験場佐久支場提供)

4 発生原因

現時点では不明であるが、究明中である。

5 留意点

- (1) 生理障害等でも葉に斑点を生じる場合がある。それらは水浸状ではなく、個々の斑点が拡大して大型になることはない。
- (2) 顕微鏡の使用が可能であれば、病斑部と健全部の境界部分を検鏡すると細菌の滲出が確認できる。ただし葉焼け等の傷口から他の菌が感染している場合や、黒腐病の場合もあるので、診断が困難な場合は試験場等に依頼する。

6 対策

- (1) 育苗施設をよく観察し、発病株の有無を調査する。
- (2) 発病が確認された場合、その育苗トレイの苗、可能であれば同一育苗ロットの苗はすべて廃棄する(ほ場外の土中深く埋める)。育苗時に頭上灌水が行われるため、育苗トレイ上で広範囲に病原細菌が伝播する可能性がある。発病苗周囲の苗は、一見健全に見えても保菌している可能性が高い(無病徴保菌苗)。
- (3) 育苗トレイ等の資材は水で良く洗浄した上で、ケミクロンGにより消毒する。
- (4) ほ場では、昨年の残渣等の伝染源が残っている可能性がある。さらに無病徴保菌苗が定植される可能性もあるので、初期から登録薬剤による予防散布に努める。降雨前、または直後の薬剤散布が有効である。

長野県病害虫防除所
所長：飯島章彦
担当：武井正明
TEL：026-248-6471（直通）
FAX：026-248-6473
E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp